

お知らせ

- 年次総会決定事項；本年度活動計画は3頁に記載の通り。役員改選の結果；代表：坂本彌、副代表：新井孝男、真鍋昌義、幹事：鶴沢和男（新任）久我哲夫、村野忠夫、監事：森忠良（新任）。
- セブン・イレブンみどりの基金；会の「房総半島におけるニホンジカ食害による森林植生変化調査」に対し今年度350,000円の助成が決定されました。4月19日総会で承認された予算計画にはこの助成を織り込み済みのため、計画の変更はありません。
- 5月の臨時活動日；5月4日（月・休日）は植生調査の臨時活動日です。第2駐車場9時30分集合、昼食持参。主に5月上旬に開花する植物や1・2次調査で未確認の植物の調査・撮影を予定しています。家族や友人連れの参加も歓迎します。悪天候等が予想される場合、日程を変更しますので、参加予定の方は必ず前日迄に会のアドレス宛てメール又は電話ください。
- 次回定例活動日；5月24日（日）9時30分第2駐車場集合、主な活動はシイタケ本伏せ、巨木林調査、植生調査、食害調査など。
- 会員の退会と入会；3月31日佐々木平八会員は規約第5条但し書き該当による退会。3月31日鈴木敦会員、菅沼弘巳会員、4月1日福田征夫会員退会。4月19日船橋の安藤彰浩さん、四街道の栗山忠俊さん入会。安藤さんはキノコ、栗山さんは植物調査が趣味とのこと、よろしくお願ひします。4月19日現在会員数41名。
- ちば里山新聞；19号誌を同封します。メールの方は「ちば里山センター」ホームページで閲覧ください。

活動の記録

4月19日（日曜日）晴 参加は新井、安藤、伊藤、鶴沢、大賀先生、甲斐、苅米、久我夫妻、栗山、坂本、高橋（洋）、松本、真鍋、森の15名。

年次総会のあと、豊作のシイタケを賞味しながら昼食、午後は巨木林調査、植生調査、古井戸堀り、スタジイ林方面の水辺と斜面林の観察ツアーなど、快晴の清々しい新緑の森をのんびりと楽しみました。

○H21年度定時総会；出席15名、委任状5名、計20名で会員総数41名に対する定足数を充足して総会成立、代表を議長に議事進行、20年度活動報告、会計報告、監査報告。更に21年度活動計画案・予算案の提案・審議。活動計画のうち、一般参加者募集の6月行事について、活動メニュー再検討の注文が付き全議案一括承認。役員改選により前記の役員を選出、坂本代表挨拶で総会を終了した。代表挨拶全文を4頁に掲載しました。

○巨木林調査（林床木本調査）大賀先生は調査区内の落葉樹の種名同定・記録作業を開始されました。残りは5～6月に継続の予定です。

○シイタケ収穫；前回収穫から2週間経過し、気温上がり雨もあったせいか、シイタケは大型厚肉で収量約6㌦、サルの食害なく、保護ネット外のホダ木も無傷でした。昼食時に皆で存分に賞味し、お土産に持ち帰って美味しく頂きました。森の恵みに感謝。



年度初めの活動日に新会員二人を迎えて



快晴の清々しい新緑の森で年次総会

○植生調査；植物班は景観管理林・巨木林及びマダケ林・ホテイチク林で植生調査を行い、62種を確認、このうちスイカズラ科のミヤマウグイスカグラ（*Lonicera gracilipes* Miq. var. *glandulosa*）（千葉県RDB:D）は一次・二次調査の未確認種です。開花期でないため同定困難なものは開花期を待って同定します。

○井戸堀り（古井戸の清掃・復元）；清和の歴史に詳しい吉原先生によると「豊英島は、昭和44年に豊英ダムができるまでは「八幡台」と呼ばれていました。そして、周辺は「川回し」で造られた水田に囲まれていました。この「川回し」は宝暦年代（1751～1761）に安房から来訪した里見倉沢（サトミソウタク）の指導により実施され約2ヘクタールの水田が生まれたと記録にあります。

倉沢（ソウタク）は「八幡台」に居宅を構え一隅に井戸を掘りました。（その跡は現在も残っています。）台地には信仰していた八幡様を祀りました。（これが八幡台の由来？）後に江戸・上野御徒町に住まいを移し文化13年にその生涯を閉じました。」とのこと。（千年の森便り24号参照）

今回は埋まっている井戸を復元（清掃）して、その深さや大きさなどを確認するとともに、多少でも水が確保できればとの思いから、坂本さんをリーダーに井戸堀りに取り組みました。

スコップ、安全ロープ、手箕（土砂はこび）などそろえて、いざ数十年、数百年ぶり（？）に井戸を掘ってみると、堆肥化した落ち葉や土砂で埋まっていて、思ったより深い様子でした。狭く慣れない場所の作業で、交代で一人数杯ずつ運び出しましたが、共同作業は盛り上がるのを実感します。2.5mまで掘り込んだところで、鉄棒をさしてみるとさらに2mほどブスブスと入りました。最低でも4～5mはあるようです。今回はここまでとし、次回さらに掘り込む予定です。

井戸の構造は、地下3～4mにある不透水層（岩の層）まで掘り込んだ穴に、上部の土砂の層から染み出した水がたまるタイプと思われます。久留里城の頂上直下にある男井戸（おいど）、女井戸（めいど）と同じものと思われる。（伊藤記）



大勢で交代の井戸堀りに活気づく

○スタジイ林ツアー；全員でスタジイ林ツアー健脚コースに挑戦しました。水辺に向かって急斜面を降下、水辺には漂着したペットボトルやプラスチックの容器や弁当箱などのごみの山。途中斜面の岩肌から染み出す水滴が見える、その位置と井戸の深さが適合しているようだ。アオキの食害は平坦部以上に進み、葉を食べ尽くされて背丈以下のアオキは完全に死滅。またスズタケの食害もひどく、全ての葉を失くした群落はほぼ消滅に近い。スタジイ林南斜面クロムヨウラン群生地に開花を待つキンラン一株を発見し金網で保護。帰路は急斜面を登り適度の汗を流す楽しいツアーでした。

豊英島の春



豊英島の林床はエビネの花盛り、ミツバツツジも見ごろでした。最近シカの往来が少ないのか植物の新しい食痕は殆どなく、糞も少ない。サルも飽食気味なのか、シイタケ食害も殆どない。腐葉土のカブトムシ寝床には幼虫が数十匹がまるまると育っています。

いつものモミの大木の巣にトビが卵2個産卵、抱卵中です。今年も元気なヒナの誕生と巣立ちを期待しましょう。

この活動は、2009年度セブニーレブンみどりの基金の公募助成を受けています。

（続く3・4頁は今年度の活動計画関連記事です）

H21年度活動計画

森林整備	生物多様性保全の観点から、自然の遷移に委ねることを基本とし、森林整備は必要最小限にとどめる。	・コナラ更新林の実生成長調査を継続する。
野生動物調査と対策	ニホンジカなど動物の生態・生息数調査、樹木や林床植物の食害調査と保護対策など実施する。	・活動体験「ニホンジカと共生する森づくり」
巨木林調査	成長量調査と林床木本調査を継続実施する。	
植生調査	2009-2010の2カ年間で第3次調査を実施し、豊英島植生リスト（含む写真集）を編集する。	
きのこ調査	中央博物館の指導を受け、引き続き自生きのこ調査およびきのこ観察会を実施する。	・きのこ目録・標本・写真集 ・秋のキノコ観察会実施
照度調査	巨木林調査の一環として調査するほか、キノコ栽培、コナラ林更新、希少種保全等への影響も調査する。	・調査体制、データ入力保存 ・測定地点明示・照度計
安全研修会	ちば里山センター主催の安全研修会（チェーンソー）を実施する。	
その他の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐材を利用しシイタケ等の植菌・栽培を実施する。 ・古井戸の清掃、物置の整備など行う。 ・水辺の清掃を実施する。（6月、一般参加者募集）* 	
県民の森との協賛	県民の森事務所の協力を受けるとともに、協賛・連携を推進する。	

*6月に一般参加者募集して実施するテーマについては、水辺清掃が相応しいかどうか、会活動の中心的なテーマ（例えば植生調査など）を含めて再検討する。

定例活動日

月日（曜日）	主な活動	
4月19日（日）	年次総会、巨木林調査、食害調査、植生調査	
5月24日（日）	食害調査、マダケ林保護柵補強、シイタケ本伏せ、巨木林調査、植生調査	
6月14日（日）	シカ個体数調査、水辺清掃、食害調査、植生調査、植生保護、巨木林調査	
7月20日（月）	照度調査、食害調査、植生調査	
9月21日（月）	里山活動体験「ニホンジカと共生する森づくり」 （レクチャー、個体数・食害調査、角砥ぎ保護）	
10月24日（土）	きのこ観察会	
12月5日（土）	安全研修会、巨木林調査（林床）忘年会	
12月6日（日）	巨木林調査（成長量・林床）、きのこホダ場保護柵、リースづくり、	
1月11日（月）	巨木林調査（成長量・林床）照度調査	
2月14日（日）	発表会、キノコ植菌、	
3月22日（月）	シカ個体数調査、食害調査、植生調査	

主な活動のほかに各班は余裕時間を活用し班活動を行う。

また定例活動日のほか必要に応じて臨時活動日を計画する。

ちば千年の森をつくる会が当初からめざしていたのは、豊英島の特徴ある植生の保全だったと思いますが、そのために何をしたらよいのかについては、侵入したタケを退治することぐらいしか必ずしもよくはわかっていなかったように思います。一方、我々が活動を始めてまもなく、シカが出没するようになり、島内の植生に大きな影響を与えるようになりました。

そういう状況のなかで、福島さんや大賀先生が入会され、あるいは吉原先生や県中央博物館の吹春先生の指導がいただけるようになりました。その結果として、具体的には先ほど今年度の活動計画として説明していただきましたが、我々の活動について一つの方向が見えて来たのではないかと考えています。一言で言えば「まず事実を正確に把握しよう」ということでしょうか。

世の中にはいわゆる里山活動団体は数多く存在し、それなりに活動していますが、そういうなかではユニークかつ有意義な存在ではないかと考えています。学術的な色彩が濃いと言えなくもない。だから、そのための問題もあります。

我々の活動において、福島さんや大賀先生に依存する部分が極めて大きいということです。専門的な部分はやむを得ないのですが、個々に見れば我々でもやれることはそれなりにあると思います。必要なことは学習しながら、積極的に受け持つようにしていきたいと思います。

ところで、こういう活動がボランティアと言えるのかどうかよくわかりませんが、少なくとも他から強制されたものではなく、会員それぞれが自ら進んで参加しているわけです。だからその駆動力として、楽しみややりがいがないと成りません。若干の義理というものもあるかもしれませんが。

最近、耳が遠くなったのかもしれませんが、会活動について何をしたいかというようなことが、一部の人からしか聞こえてこないように思います。参加する以上は、自分のやりがいが増大する方向に持っていけるのが望ましいわけで、そのためにもっと積極的な発言を期待したいと思います。総会の場はもちろん、その他どんな場でも結構です。それによって、皆がより楽しめる活動にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(2009.4.19 Sakamoto Wataru)